

# 数値計算第13回 最小二乗法

テーマ： 最小二乗法

問題点： 分点 $(x_d, y_d)$ が補間多項式の未知数よりも多いとき、多項式をどう求めるか

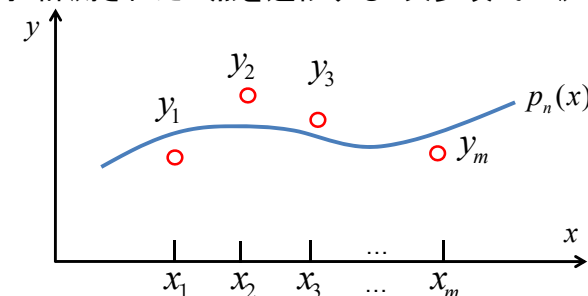
方法： 残差の2ノルムが最小の多項式を求める

$$Ax = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix} = b \quad (m > n)$$

## 最小二乗近似を使う場面

- 分点数 $m$ が多項式の次数 $n$ より、大きい場合の近似方法
- 分点 $(x_d, y_d)$ と多項式の残差の2ノルムを最小化
  - 最小二乗近似

例. 計測された $m$ 点を近似する $n$ 次多項式  $p_n(x)$



多数の実験データから近似曲線を求めるときによく用いる

2

## 今回の演習

- 演習13-1 最小二乗近似（QR分解）
- 演習13-2 最小二乗近似（Matlab）

## 過剰条件方程式

方程式の数 $m$ より未知数 $x_1, x_2, \dots, x_n$ の数 $n$ が小さい  
縦長な行列になる

$$Ax = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix} = b \quad (m > n)$$

縦長

3

## 過剰条件方程式の最小二乗解

方程式が多く，一般的な解は持たない  
そこで下式を最小化する方法で求める

$$F(x) \equiv \|b - Ax\|_2^2$$

(2ノルムの2乗)

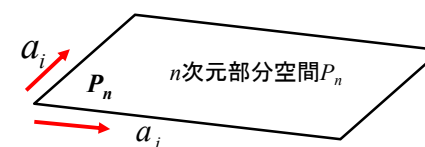
- $F$ が最小となる  $x^*$  : **最小二乗解**
- 解を求める方法 : **最小二乗法**
- 残差  $r = b - Ax$

## 最小二乗解の幾何学的な意味(1)

- $Ax$ は  $(a_1, a_2, a_3, \dots, a_n)$  が線型結合で張る  $R^m$  の  $n$ 次元部分空間  $P_n$  ( $x, a_n$ は列ベクトル)

$$y = Ax = (a_1, a_2, a_3, \dots, a_n)x$$

$$= a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n$$



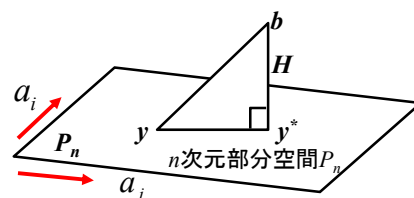
6

## 最小二乗解の幾何学的な意味(2)

- 直角三角形  $yy^*b$  に対し，三平方の定理から下式が成り立つ

$$\|b - y\|_2^2 = \|b - y^*\|_2^2 + \|y - y^*\|_2^2 \geq \|b - y^*\|_2^2 = \|r^*\|_2^2$$

- $b \in R^m$  に最も近い  $P_n$  上の点は垂線の足  $y^*$
- このとき残差は最小値  $r^*$  となる (**最小二乗解**)



7

## 正規方程式の導出

- $P_n$  上の点  $y = Ax$  が垂線の足  $y^*$  となる条件
- 残差  $r = b - Ax$  が  $P_n$  の全ベクトルと **直交**

$$(a_j, b - Ax) = a_j^T (b - Ax) = 0 \quad (1 \leq j \leq n)$$

- まとめて書くと **正規方程式** の式 (4) となる

$$A^T (b - Ax) = \begin{pmatrix} a_1^T \\ a_2^T \\ \vdots \\ a_n^T \end{pmatrix} (b - Ax) = 0 \quad A^T (b - Ax) = 0$$

$$A^T Ax = A^T b \quad (4)$$

## 一般的な最小二乗近似の表現

- 最小二乗近似となる $n-1$ 次多項式

$$y = c_1 x^{n-1} + \dots + c_{n-1} x^1 + c_n$$

ヴァンデルモンド行列と呼ぶ



$$\begin{pmatrix} \beta_1 \\ \beta_2 \\ \vdots \\ \beta_m \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha_1^{n-1} & \dots & \alpha_1^1 & 1 \\ \alpha_2^{n-1} & \ddots & \alpha_2^1 & 1 \\ \vdots & & \ddots & \vdots \\ \alpha_m^{n-1} & \dots & \alpha_m^1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_n \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \beta_1 &= c_1 \alpha_1^{n-1} + \dots + c_{n-1} \alpha_1 + c_n \\ \beta_2 &= c_1 \alpha_2^{n-1} + \dots + c_{n-1} \alpha_2 + c_n \\ &\vdots \\ \beta_m &= c_1 \alpha_m^{n-1} + \dots + c_{n-1} \alpha_m + c_n \end{aligned}$$

過剰条件方程式  
( $m$ 行 $n$ 列)

$$b = Ax$$

正規方程式  
( $n$ 行 $n$ 列)

$$A^T b = A^T A x$$

9

## 最小二乗解の計算方法

教科書89ページ

- 正規方程式の不安定性 (数値計算上の)

$$A^T A x = A^T b \quad (4) \quad (A^T A \text{は条件数が大})$$

- $A=QR$ と分解する計算方法を推奨

(ハウスホルダーQR分解法)

教科書88ページ

$$(QR)^T QR x = (QR)^T b$$

$$R^T Q^T QR x = R^T Q^T b$$

$$R^T R x = R^T Q^T b$$

$$R x = Q^T b$$

ハウスホルダー変換で  
直交行列 $Q$ を計算

( $Q^T Q = E$ )

$R$ は上三角行列

## 最小二乗近似の直線の計算例

- データに対し最小二乗近似となる直線

$y = c_1 x + c_2$  の係数を求める

xd	1	2	3
yd	1	2	5

$$c_1 \cdot 1 + c_2 = 1$$

$$c_1 \cdot 2 + c_2 = 2$$

$$c_1 \cdot 3 + c_2 = 5$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 1 \\ 3 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 5 \end{pmatrix}$$

過剰条件方程式

11

## 最小二乗近似の直線の計算例 (つづき)

% 正規方程式を用いる方法

% 条件数大なので非推奨

A=[1 1;2 1;3 1];

b=[1;2;5];

AtA=A'\*A;

Atb=A'\*b;

c=AtA\Atb

c=

2.0000

-1.3333

% QR分解による方法

% こちらを推奨

A=[1 1;2 1;3 1];

b=[1;2;5];

[Q,R] = qr(A,0);

z=Q'\*b;

c=R\z;

c=

2.0000

-1.3333

最小二乗近似関数

$$y_1 = 2x_1 - 1.3333333$$

なお、この例は行列の次元数が小さいので  
2つの方法の結果は等しい

12

## 演習13-1 最小二乗近似（QR分解）

- 最小二乗近似プログラムで、グラフを描画する
- データ定義を追加すればプログラムは動作する
- 以下の2種類のデータに対し、一次式( $y=c_1x+c_2$ )と二次式( $y=c_1x^2+c_2x+c_3$ )で近似し、4種のグラフを作成する

xd	1	2	3
yd	1	2	5

xd	1	2	3	1.5	1.8	2.5
yd	1	2	5	2.5	3.0	3.5

13

## 演習13-2 最小二乗近似（Matlab）

- Matlab の`polyfit`関数を使用して、下記データの最小二乗近似となる直線を求める

xd	1	2	3
yd	1	2	5

xd	1	2	3	1.5	1.8	2.5
yd	1	2	5	2.5	3.0	3.5

doc polyfitで使用例を参照して作成しなさい

14

## 今回の講義のまとめ 最小二乗法

テーマ： 最小二乗法

問題点： 分点( $x_l, y_l$ )が補間多項式の未知数よりも多いとき、多項式をどう求めるか

方法： 残差2ノルム最小の多項式で近似

$$Ax = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix} = b \quad (m > n)$$